

第3回	<p>主テーマ：感染予防の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/ 長崎/中島/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装された滅菌物の取扱い ・滅菌物の渡し方 ・滅菌手袋の着脱
第4回	<p>主テーマ：感染予防の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/ 長崎/中島/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装された滅菌物の取扱い ・滅菌物の渡し方 ・滅菌手袋の着脱
第5回	<p>主テーマ：創傷管理技術（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の技術演習を振り返る ・創傷管理の基礎知識（「形態機能学【皮膚】の振り返りを含む） ・創傷の観察 ・創傷の処置（ドレッシング剤、包帯、創傷処置の方法） ・褥瘡の評価と処置（【褥瘡予防】の振り返りを含む）
第6回	<p>主テーマ：創傷管理技術（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の技術演習を振り返る ・創傷管理の基礎知識（「形態機能学【皮膚】の振り返りを含む） ・創傷の観察 ・創傷の処置（ドレッシング剤、包帯、創傷処置の方法） ・褥瘡の評価と処置（【褥瘡予防】の振り返りを含む）
第7回	<p>主テーマ：栄養摂取の援助技術（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・経腸栄養 ・経鼻経管栄養法のリスクを考える ・中心静脈栄養 ・末梢静脈栄養
第 8 回	<p>主テーマ：栄養摂取の援助技術（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経腸栄養 ・経鼻経管栄養法のリスクを考える ・中心静脈栄養 ・末梢静脈栄養
第 9 回	<p>主テーマ：排泄の援助技術①（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：中島/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する処置（浣腸、摘便、一時的導尿）
第 10 回	<p>主テーマ：排泄の援助技術①（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：中島/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する処置（浣腸、摘便、一時的導尿）
第 11 回	<p>主テーマ：排泄の援助技術②（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：中島/隅田/長崎/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時的導尿
第 12 回	<p>主テーマ：排泄の援助技術②（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：中島/隅田/長崎/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時的導尿
第 13 回	<p>主テーマ：排泄の援助技術③</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：中島/隅田</p>

	<p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の援助技術演習を振り返る ・既習の知識と演習での学びを活用して「持続的導尿を実施している患者」の観察ポイントとリスクを考える
第 14 回	<p>主テーマ：救命救急処置技術 授業形態：講義とグループワーク 担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急処置の意義と目的 ・救急蘇生法 ・止血法
第 15 回	<p>主テーマ：呼吸・循環を整える技術①（2コマ連続で行う） 授業形態：講義とグループワーク 担当：西田/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸の意義とアセスメント（「形態機能学【呼吸器系】の振り返りを含む） ・呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 ・気道分泌物の排出の援助 ・酸素吸入療法 ・体温管理・保温の援助
第 16 回	<p>主テーマ：呼吸・循環を整える技術①（2コマ連続で行う） 授業形態：講義とグループワーク 担当：西田/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸の意義とアセスメント（「形態機能学【呼吸器系】の振り返りを含む） ・呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 ・気道分泌物の排出の援助 ・酸素吸入療法 ・体温管理・保温の援助
第 17 回	<p>主テーマ：呼吸・循環を整える技術②（2コマ連続で行う） 授業形態：演習 担当：西田/隅田/長崎/中島/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素吸入 ・鼻腔内吸引
第 18 回	<p>主テーマ：呼吸・循環を整える技術②（2コマ連続で行う） 授業形態：演習</p>

	<p>担当：西田/隅田/長崎/中島/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素吸入 ・鼻腔内吸引
第 19 回	<p>テーマ：呼吸・循環を整える技術③</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：西田/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環を整える技術演習を振り返る ・既習の知識と演習での学びを活用して「呼吸を整える援助を実施している患者」の観察とリスクを考える
第 20 回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術①</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸血療法
第 21 回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬に関する基礎知識 ・経口与薬法 ・外用薬の皮膚・粘膜適用 ・注射法
第 22 回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬に関する基礎知識 ・経口与薬法 ・外用薬の皮膚・粘膜適用 ・注射法
第 23 回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術③</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/長崎/中島/西田</p>

	<p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：点滴静脈内注射（点滴の準備と滴下調整）
第 24 回	<p>主テーマ：検査に伴う看護技術①</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査に伴う看護師の役割 ・主な検査の概要 ・血液検査とは ・静脈血採血の方法
第 25 回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術④（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮下注射と筋肉内注射（注射の準備と投与）
第 26 回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術④（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮下注射と筋肉内注射（注射の準備と投与）
第 27 回	<p>主テーマ：検査に伴う看護技術②（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静脈血採血
第 28 回	<p>主テーマ：検査に伴う看護技術②（2 コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静脈血採血
第 29 回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術⑤</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・与薬・輸血の技術演習を振り返る ・既習の知識と演習での学びを活用して「与薬を実施している患者」の観察とリスクを考える
第 30 回	<p>主テーマ：診療関連技術論演習のまとめ</p> <p>授業形態：グループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いて行う ・診療関連技術の提供が患者に与える影響を既習の知識と本科目における学びを活用して思考する ・事例の診療関連技術は実施可能かどうかを科学的根拠から判断する ・安全に診療関連技術を実施するために求められる看護専門職の責務と、他者との連携・協働について思考する
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（メジカルフレンド社） ・新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メジカルフレンド社） ・新体系看護学全書 基礎看護学まとめノート
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論（メジカルフレンド社） ・新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論（メジカルフレンド社） ・深井喜代子編著：基礎看護技術ビジュアルブック 手順と根拠がよくわかる（照林社） ・深井喜代子監修：ケア技術のエビデンス（1）（2）実践へのフィードバックで活かす（へるす出版） ・藤本真記子ら監修：看護技術がみえる① 基礎看護技術（メディックメディア） ・佐藤久美ら監修：看護技術がみえる② 臨床看護技術（メディックメディア） ・山口瑞穂子編著：看護技術 講義・演習ノート 第2版 下巻 診療に伴う看護技術編（サイオ出版） ・任和子ら編集：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版（医学書院） ・佐藤達夫：根拠がわかる注射のための解剖学（インターメディカ） ・佐藤弘明：看護の現場ですぐに役立つ「輸液のキホン」（秀和システム） ・公益財団法人日本医療機能評価機構 https://www.med-safe.jp ・PMDA 独立行政法人 医薬品医療機器総合情報 https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/medical-safety-info
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題のフィードバックは授業内で行う。</p> <p>定期試験のフィードバックは成績発表後に Google クラスルームを活用して行う。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>医療は日々進歩し新しい治療法が開発されています。そのような中、臨床現場では看護師は医師の代行者として様々な診療に関連する看護技術を提供しています。しかし皆さんのような初学者の方が、初めて診療関連技術を演習するのはとても難しく、また怖さを感じると思います。このためどうしても技術手順の習得に意識が集中しがちです。しかし診療関連技術を提供するにあたって最も大切なことは、患者の安全を守ることです。この患者の安全を死守するためには、手順だけでなく「なぜその手順（方法）なのか」という目的や根拠、理由をしっかりと理解することがとても重要です。その知識が医療事故や感染などのリスクから患者を、そして自分自身を守ってくれます。よって、以下のポイントを活用して学習を進めてください。</p> <p>1. 「どうしてこれを行うの?」「なぜ、この方法なの?」等の疑問をもち、その疑問を解決（根拠を</p>

理解)しながら学びを深めてください。

2. 診療関連技術は患者の体内に針やカテーテルを挿入し、さらに薬物や酸素を投与するなど患者に侵襲を与える看護技術でもあります。これらを安全に実践するためには、1年次から2年次にかけて学修した既習の知識(「形態機能学」「感染と免疫」「生活援助技術論演習」「疾病学総論・各論」「薬理学」)の想起が必要となりますので、復習(振り返り)を必ず行い、その振り返りはポートフォリオにまとめ、授業に参加してください。

3. 「診療」は事故のリスクを伴います。そのため各診療関連技術に関して「医療事故」の視点を持ち、その防止対策を思考していきましょう。

4. 「診療」は感染のリスクを伴います。そのため各診療関連技術に関して「清潔と不潔」を常に意識して学びを深めましょう。

6. 診療関連技術論での学びを、後期からの「看護のための臨床検査」「各領域の看護学方法論」などの科目と関連させることでより理解が進みますので、後期もこの学びを活用して継続的に学修を深めてください。

